

骨粗鬆症の予防・治療と 最新トピックス

今回、「骨粗鬆症の予防・治療と最新トピックス」というテーマで特集の企画・立案を依頼された。折しもわが国の『骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2025 年版』（8 月 1 日発刊）の改訂作業中で、臨床的に重要と思われる項目を選んで本特集の執筆項目とした。

わが国の骨粗鬆症診療関連のガイドラインとして、1998 年に『骨粗鬆症の治療（薬物療法）に関するガイドライン』が初めて示され、2002 年に改訂版が作成された。その後、日本骨粗鬆症学会、日本骨代謝学会、骨粗鬆症財団による骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン作成委員会が設置され、『骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2006 年版』が刊行された。新たな薬剤の登場や骨粗鬆症関連の診断基準、ガイドラインの改訂などに伴い、2011 年版、2015 年版が刊行されてきた。

これまでの間、エビデンスの評価や推奨度を明確なプロセスで決定する GRADE (Grading of Recommendations Assessment, Development and Evaluation) に基づいた手法など、診療ガイドライン作成方法が大きく変化してきた。今回のガイドライン改訂に際しては、わが国の医療機能評価機構による EBM 普及推進事業 (Minds) による「Minds 診療ガイドライン作成マニュアル 2020 ver. 3.0」の作成方法に準拠して作成された。

骨粗鬆症の栄養療法、運動療法、薬物療法の項では、上記マニュアルに従って Clinical Question (CQ: 臨床上の課題) を作成し、システマティック・レビューを行い、エビデンスの評価・統合後に推奨文を作成した。また、エビデンスが十分ではないが多くの医療従事者が临床上疑問に思っている課題については、Question (Q) として、コンセンサスレベルの回答を用意した。

今回の特集では、骨粗鬆症と椎体骨折の疫学、検診、骨粗鬆症の予防、栄養療法、運動療法、薬物療法のエビデンス、併用・逐次療法、薬物療法の目標と継続・変更・休薬、骨折リハビリサービスの各項目について、ガイドライン作成に関与された先生方に解説をお願いした。骨粗鬆症の日常診療に役立てば幸いである。

(宗圓 聡)